

市民活動団体と鎌倉市による協働事業
平成27年度実施分

事業評価

鎌倉市協働事業選考委員会

平成27年度に実施された協働事業の事業評価

《概要》

平成28年5月29日(日)午前10時から、鎌倉市役所全員第一委員会室において「市民活動団体と鎌倉市による協働事業実施報告会」(平成27年度実施分)を開催し、協働した団体及び担当課から各事業の結果報告が行われました。

その報告を受け、同日午前10時50分から「鎌倉市協働事業選考委員会」を開催し、それぞれの事業評価を行いました。

委員会における事業評価の内容は以下のとおりです。

なお、評価を行った委員会の委員は次のとおりです。

《鎌倉市協働事業選考委員会 委員》

委員長	志村 直愛	東北芸術工科大学 教授 (欠席)
副委員長	土屋 真美子	特定非営利活動法人アクションポート横浜 理事
委員	里吉 弘治	公募市民
委員	渡邊 公子	特定非営利活動法人鎌倉市市民活動センター運営 会議 理事長
委員	小池 忠紀	鎌倉市市民活動部 部長

《実施事業》

1. ノーバディズ・パーフェクト・プログラムによる親育ち講座事業 (1カ年実施)

… 2 P

● ノン・ペイ・ス・パ・フエクト・プログラムによる親育ち講座事業

★評価の高かった点

- ・ 8回講座を開催し、全員が8回の講座に継続して参加したこと。講座に魅力があったからこそ継続して参加したのだと思う。
- ・ 講座が終わった後の仲間作りの体制を整えていること。
- ・ 協働の主旨が生かされていたこと。
- ・ 大学との協働も行い、保育科系の学生のボランティア参加などもとても効果的と考える。

★評価の低かった点

- ・ NP講座のプログラムが確立しているだけに、柔軟性という点では工夫が必要なのではないか。例えば、ママとパパとが一緒に参加できるプログラムなどがあればと思う。

★今後に向けての課題点

- ・ 専業主婦、働く母親、父親と分けないで一緒にやることで広がりを持つと思う。
(色々な立場が理解できる)
- ・ 実践を取り入れた講座、出張講座形式など、プログラムにとらわれ過ぎず柔軟に検討してほしい。
- ・ 地域の中で個別に活動している団体もあるので、そういった団体との連携を図っていくなど、他の団体とも交流し、鎌倉らしいNPの手法を開発してほしい。
- ・ 講座を通しての仲間作りができるようにフォローする。
- ・ ファシリテーター育成に一定期間かかるため、継続していく努力が必要と思われる。

《総体的な評価》

行政だけではできない講座を団体と連携して実施したということで、協働事業として相応しい取組であった。団体と担当課はよくコミュニケーションが取れており、うまく役割分担をして結果を出している。また、平成28年度も引き続き連携しながら事業を実施するというので、それも成果だろう。

事業のPRについてなど課題はあるが、将来的には、他の団体との交流を図っていくなどし、広がりを持った活動をしていってほしい。NPOセンターなどにも相談しながら進めたら良いのでは。

講座終了後の仲間作りの場についても考えられており、評価に値する事業であった。